

腸管出血性大腸菌感染症の報告が 増加しています。

- ◇ 第34週(8月19日～25日)の報告は11人で、同じ週の過去5年間の報告の平均値(3.6人)の**約3倍**でした。
- ◇ 例年今後の時期も流行がみられ、引き続き注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症は、**O157などの病原性大腸菌**が感染し、下痢や腹痛になり、ひどい場合には溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症など重症化することがあります。特に抵抗力の弱い**乳幼児**や**高齢者**では注意が必要です。主な感染経路は①**菌に汚染された飲食物を摂取する**、②**患者の糞便で汚染されたものを口にする**、であり、野菜などの**食品を良く洗う**、**中心部まで加熱(75℃で1分間以上)**することが重要です。さらに、しっかりした**手洗い**が重要です。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、**早めに医療機関を受診**しましょう。詳しくは、**「O157に注意しましょう」**(衛生研究所)をご参照ください。

市内腸管出血性大腸菌感染症 報告数の推移
(2013年第34週までの集計(8月27日現在))

